

山田幹郎（耕士）略歴

《学 歴》

- 昭和38年 3月 名古屋大学文学部卒業
昭和40年 3月 名古屋大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和43年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学

《職 歴》

- 昭和43年 4月 名古屋大学講師法学部、教養部併任（昭和44年 3月まで）
昭和44年 4月 名古屋大学講師教養部に配置換
昭和48年 7月 名古屋大学助教授教養部
昭和54年 4月 名古屋大学助教授総合言語センターに配置換
昭和55年 4月 名古屋大学助教授文学部併任（昭和57年 3月まで）
昭和55年 4月 名古屋大学助教授大学院文学研究科担当（昭和57年 3月まで）
昭和61年 8月 名古屋大学教授総合言語センター
平成 3年 4月 名古屋大学教授言語文化部
平成 5年 4月 名古屋大学教授大学院国際開発研究科担当（平成15年 3月まで）
平成15年 4月 名古屋大学教授大学院国際開発研究科に配置換

《学会活動》

- 平成 3年10月 日本英文学会中部支部監事 [平成13年 9月まで]
平成 4年 4月 名古屋シェイクスピア研究会会長 [平成13年 3月まで]
平成 7年 4月 日本シェイクスピア協会委員 [平成13年 3月まで]
平成14年10月 日本英文学会中部支部副会長 [現在に至る]

論 文

- 「『世俗劇』としての『リア王』」 名古屋大学英文学会「Ivy」第5巻 昭和41年3月
- 「『アントニーとクレオパトラ』の批評史的考察 「愛」の否定から肯定へ」
「Ivy」第6巻 昭和42年2月
- 「『フォースタス博士』における作者と主人公の関係 日本における解釈傾向について」
「Ivy」第7巻 昭和43年3月
- 「The Theme of Patience and Cyril Tourneur」
名古屋大学教養部「紀要」第13輯 昭和44年3月
- 「The Spanish Tragedyにおける悪について」 「紀要」第14輯 昭和45年3月
- 「Horestesにおける復讐について」 「紀要」第15輯 昭和46年2月
- 「学問としての詩 シドニーの詩論の一面」 「紀要」第16輯 昭和47年3月
- 「Apius and Virginiaにおける悲喜劇について」 「中部英文学」第2号 昭和47年10月
- 「19世紀における『フォースタス博士』」 「紀要」第18輯 昭和49年3月
- 「“paper stage”」 「英語青年」第123巻第8号 昭和52年11月
- 「ロバート・グリーンの喜劇（その一）」 「紀要」第22輯 昭和53年3月
- 「シェイクスピアの“quality”」 「英語青年」第124巻第3号 昭和53年6月
- 「ロバート・グリーンの喜劇（その二）」 「紀要」第23輯 昭和54年3月
- 「総合研究『エヴリマン』 2. テキスト 3. 註解（1）～（7）」（鳥居忠信、磯野守彦と共著）
三重大学教育学部「研究紀要」第31巻～第34巻、
三重大学人文学部「人文論叢」第1号、第3号～第5号 昭和55年2月～昭和63年3月
- 「ロバート・グリーンの喜劇（その三）」
名古屋大学総合言語センター「言語文化論集」第I巻 昭和55年3月
- 「ディアナの薔薇とロバート・グリーンの亡霊」
名古屋大学文学部「研究論集」第79巻 昭和56年3月
- 「ロバート・グリーンと庇護者たち」 「研究論集」第82巻 昭和57年3月
- 「ロバート・グリーンの悲劇感覚」 「言語文化論集」第V巻第1号 昭和58年10月
- 「ポーハンの夢 『ジェイムズ四世』の時間構造」
「言語文化論集」第VI巻第1号 昭和59年11月
- 「シェイクスピアとスザンナ」 「言語文化論集」第VII巻第1号 昭和60年10月
- 「トマス・ウィルソンのレトリック論」 「言語文化論集」第IX巻第1号 昭和62年10月
- 「コウルリジのシェイクスピア観 その歴史的な比較の相について」（川崎寿彦編『イギリス・ロマン主義に向けて 思想・文学・言語』収録） 名古屋大学出版会 昭和63年11月
- 「『ベイコン』における時間」 「言語文化論集」第XI巻第2号 平成2年3月
- 「初期道徳劇の世界」（『イギリス道徳劇集』収録） リーベル出版 平成3年2月
- 「フランシス・ベイコンのレトリック論」
名古屋大学言語文化部「言語文化論集」第XIII巻第2号 平成4年3月

- 「イギリス・ルネサンスにおける想像力」
 名古屋大学言語文化部特定研究委員会「情報とコミュニケーション」 平成5年3月
- 「正解を求めて イギリス初期道徳劇批評の諸相」
 同「誤解：その言語文化的諸相」 平成7年3月
- 「Richard Sherry on Elocution」
 同「言語文化情報の電子化とインターネット」 平成8年3月
- 「Jonson の Shakespeare観」
 「言語文化論集」第XIX巻第2号 平成10年3月
- 「言語コミュニケーションにおける論理学 トマス・ウィルソンの場合」
 名古屋大学大学院国際開発研究科「国際開発研究フォーラム」第12巻 平成11年3月
- 「ロバート・グリーンとスザンナ物語」(青山誠子編『女性・ことば・ドラマ 英米文学からのアプローチ』収録) 彩流社 平成12年3月
- 「シェイクスピアとスザンナ物語」(名古屋シェイクスピア研究会編『世紀末のシェイクスピア』収録) 三省堂 平成12年3月
- 「『オセロー』のレトリック」
 名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科「言語文化論集」第XXIV巻第2号 平成15年3月
- 「エリザベス時代の言語美意識 シドニーの『詩の弁護』から」
 同言語文化研究叢書2「美と文化」 平成15年3月

編 著

- 『レトリック用語小辞典』 名古屋大学消費生活協同組合印刷部 平成7年1月

翻 訳

- S・K・ヘニンガー「宇宙論と詩 序説」 「エピステーメ」第5巻第1号 昭和54年1月
- 『エヴリマン』(「総合研究『エヴリマン』1. 翻訳」鳥居忠信、磯野守彦と共訳)
 三重大学教育学部「研究紀要」第30巻第2号 昭和54年2月
- マンリー・P・ホール『象徴哲学大系』(大沼忠広、吉村正和と共訳) 人文書院
 昭和55年11月～56年10月
- フィリップ・シドニー「『アルカディア』(初稿) その一～その五」
 「言語文化論集」第II巻第1号～第IV巻第1号 昭和55年12月～57年10月
- マンリー・P・ホール『人間 密儀の神殿』(大沼忠広、吉村正和と共訳)
 人文書院 昭和57年11月
- ロバート・グリーン『文学修士ロバート・グリーンの後悔』
 「言語文化論集」第IV巻第2号 昭和58年3月
- モーリス・ハッセー『シェイクスピアの世界 ルネサンスの視覚的想像力入門』
 晃学出版 昭和58年8月

山田幹郎(耕士)略歴

- 『人間』(磯野守彦、鳥居忠信と共訳)
「言語文化論集」第V巻第2巻～第VI巻第1号 昭和59年3月～59年11月
- 『現世と子供』(磯野守彦、鳥居忠信と共訳) 「言語文化論集」第VI巻第2号 昭和60年3月
- 『イングランドのヘリコン』(抄)(坂田智恵子と共訳)
「言語文化論集」第VII巻第2号 昭和61年3月
- ジョージ・ピール『老妻物語』 「言語文化論集」第VIII巻第1号 昭和61年10月
- ロベルト・ヴァイマン『シェイクスピアと民衆演劇の伝統』(青山誠子と共訳)
みすず書房 昭和61年12月
- 『間狂言 青年』(磯野守彦、鳥居忠信と共訳) 「言語文化論集」第VIII巻第2号 昭和62年3月
- 『嘲り屋ヒック』(磯野守彦、鳥居忠信と共訳) 「言語文化論集」第IX巻第2号 昭和63年12月
- 『堅忍の城』(その1)(その5)(鳥居忠信、磯野守彦と共訳)
名城大学「人文紀要」第24巻第1号、第26巻第1号 昭和63年12月、平成2年12月
- エドワード・ベリー『シェイクスピアの人類学 喜劇と通過儀礼』(岩崎宗治、滝川睦と共訳)
名古屋大学出版会 平成元年10月
- S・K・ヘニングガー『天球の音楽 ピュタゴラス宇宙論とルネサンス詩学』(吉村正和、正岡和
恵、西垣学と共訳) 平凡社 平成2年1月
- 『イギリス道徳劇集』(鳥居忠信、磯野守彦と共訳) リーベル出版 平成3年2月

書 評

- 「Pamphlet」 「英語青年」第129巻第2号 昭和58年5月
- 『初期英国書籍集成1475-1640』 名古屋大学付属図書館「館燈」第72号 昭和58年11月
- 「A New Interpretation of Shakespearean Tragedy」
「The Renaissance Bulletin」第12巻 昭和61年3月
- 『18世紀英国・英語圏刊本集成』 「館燈」第123号 平成8年8月
- 「Shakespeare and the End of the Century」
「The Renaissance Bulletin」第27巻 平成12年3月
- 「劇場パフォーマンス研究の必読書 Robert Weimann: Author's Pen and Actor's Voice: Playing
and Writing in Shakespeare's Theatre, eds. Helen Higbee and William West」
「英語青年」第147巻第2号 平成13年5月